

こっこめ通信 06 2020

八丈島ではアカコッコのことを親しみを込めて「こっこめ」とよびます。

「植物の巧妙な生活戦略」号

6月1日より、新型コロナウイルスの感染拡大防止対策を講じたうえで、八丈ビジターセンター及び植物公園温室の利用を順次再開いたしました。休館の間、皆様には大変ご迷惑をおかけいたしました。ご協力をいただきありがとうございました。施設の再開については今後の状況に応じて変化する場合がございますのでご了承ください。皆様に安心して施設をご利用いただくため、ご理解とご協力をお願いいたします。

さて今回は、ちょっと変わった植物「寄生植物」と「腐生植物」についてのお話です。

お気楽パラサイト生活？

植物の多くは光合成によって栄養を得ています。しかし一部の植物は、光合成以外の経路から栄養分を得ています。そのまた一部に、寄生植物があります。

寄生植物は生きた植物の組織から養分を吸収し、自らの栄養分とする植物のことです。ちなみに、栄養を吸収される側の植物を宿主植物といいます。また、寄生植物は光合成を全くしないで全面的に吸収栄養に頼る種（全寄生）と、光合成と吸収栄養を併用する種（半寄生）があります。

この島のそんなお気楽パラサイト生活を営む寄生植物にスポットを当てたいと思います。

(M.K.)



◆セイヨウヒキヨモギ ハマウツボ科
ヨーロッパ原産で1973年千葉県で初めて確認された。5年ほど前、当職員が大賀郷園地に確認したが、いつ頃から侵入したかは不明。



♥ヤセウツボ ハマウツボ科
地中海沿岸が原産で、1937年千葉県で初めて確認された。2013年当職員が底土海水浴場で確認したが、いつ頃から侵入したかは不明。



◆コシオガマ ハマウツボ科
琉球列島を除き、日本各所見られる。八丈島では、八丈富士腰巻道路付近より標高の高い明るい場所で見られる。八丈富士登山道でも自生している。



♥ナンバンギセル ハマウツボ科
別名思い草ともいう。万葉集にも「道のべの尾花が下の思草云々」とある。尾花（ススキ）の根に寄生する本種を良く表現しているように思う。



◆ヒノキバヤドリギ ビャクダン科
八丈島では、ツバキ、ヒサカキ、モチノキなどに寄生する。葉は退化しているが、莖が扁平になっており、ここで光合成を行っている。

それぞれの種名前のマークは◆は半寄生、♥は全寄生の植物です。私たちの身近な場所でも見られるものもあるので、見かけたら花だけでなくその植物の足元もよく観察してみてください。新しい発見があるかもしれませんよ！

さて次のページでは寄生植物にちょっと似ている「腐生植物」のお話です。

「アカコッコ」は日本固有のヒタキ科（旧ツグミ科）の鳥で、国の天然記念物に指定されています。八丈島では一年を通して見られ、町の鳥にも選定されています。

複雑怪奇な共生関係

「寄生植物」と似た言葉に「腐生植物」というのがあります。「腐生植物」とは、菌類と共生し、生きるために必要な栄養を菌類からもらっている植物のことです。

八丈島にも、ラン科のマヤラン（写真①）やツチアケビ（写真②）、ホンゴウソウ科のウエマツソウ（写真③）やホンゴウソウ（写真④）など、多くの「腐生植物」が自生しています。

しかし、「腐生」という言葉は本来、生物の遺骸などを分解して栄養とする、菌類の生活形態を意味しているので、最近では菌類と共生するこれらの植物を指して「菌従属栄養植物」と呼ぶようです。

「共生」と言うと聞こえは良いですが、この関係は菌類にとっては何のメリットも無いように見えます。

普通の植物と菌類の「共生」であれば、植物は光合成によって生産した有機物を菌類に与え、菌類は植物の生育に必要な窒素やリンを植物に与えるといった、健全な？関係が成り立っています。

ところが、「菌従属栄養植物」の一部は葉緑素を持たず、菌類から必要な養分をもらうだけで、菌類には何の見返りも与えないという、一方的な関係を築き上げているらしいのです。

この関係は「寄生」以外の何ものでもないですね・・・。

(T.K.)



左はキンラン

暗い森の中でキンランの花に出会うと、辺りがパッと明るくなったように感じて幸せな気分になります。この花が好きな方は多いでしょう。

しかしこの植物、立派な葉を持ち、光合成もしっかり行って自ら栄養素を作り出すことができるくせに、菌類を介して周りの樹木からも栄養をもらっているという、恐ろしく厚かましい植物らしいのです。

こうした生態を持つ植物は「部分的菌従属栄養植物」と呼ばれます。

生物の不思議を追いかけるときりがありません。

八丈植物公園季節調査会の報告

八丈ビジターセンターでは、毎月第二日曜日に、植物公園の生きものを観察して季節を感じてもらう目的で「八丈植物公園季節調査会」を開催しています。季節の変化を感じられる植物は全て記録し、野鳥や昆虫の様子も観察しています。5月の季節調査はビジターセンター利用休止中のため、スタッフの研修も兼ねて9日の土曜日に実施しました。

八丈植物公園季節調査（2020年第5回）参加者：VCスタッフ 菊池、奥山、長谷川、今井

NO.	和名（島名）	状態	NO.	和名（島名）	状態	NO.	和名（島名）	状態
草本			33	トキワツユクサ	花	11	テイカカズラ	花
1	アオスゲ	花	34	トキワハゼ	花	12	トベラ	若い実
2	アオツツラフジ	蕾	35	ヌカススキ	実	13	ハゼノキ	蕾
3	アオノクマタケラン	蕾	36	ヌカボ	花	14	ハチジョウウイボタ	蕾
4	アワゴケ	実	37	ノジスミレの仲間	実	15	ヒサカキ	若い実
5	イワニガナ	花	38	ハナイバナ	花と実	16	ヒメユズリハ	花
6	ウスベニチチコグサ	花	39	ハナヌカススキ	花	17	メダケ	若芽
7	ウスベニガナ	花と実	40	ハハコグサ	花	18	モチノキ	芽の虫こぶ
8	ウラジロチチコグサ	花	41	ハルジオン	花	シダ植物		
9	オオシマカンスゲ	実	42	ヒナギキョウ	花と実	1	イシカグマ	
10	オオニワゼキショウ	花と実	43	ヒメコバンソウ	実	2	ウチワゴケ	
11	オオバコ	実	44	ヒメジョオン	花	3	オオイタチシダ	
12	オニタビラコ	花	45	ヒメヨツバムグラ	花と実	4	オオタニワタリ	新葉
13	オヤブジラミ	実	46	フウトウカズラ	咲き終わり	5	オニヤブソテツ	
14	オランダミミナグサ	実	47	ヘラバヒメジョオン	蕾	6	タチクラマゴケ	胞子葉
15	カタバミ	花と実	48	マツバウンラン	花	7	タチシノブ	胞子葉
16	キュウリグサ	花と実	49	ムシクサ	実	8	タマシダ	
17	キランソウ	花	50	ムラサキカタバミ	花	9	ナチシケシダ	
18	コケミズ	実	51	ヤエムグラ	実	10	ナンカイイタシシダ	
19	コケリンドウ	花	52	ヤマヌカボ	実	11	ノキシノブ	
20	コハコベ	花と実	53	ヤマモモ	若い実	12	ハチジョウカナワラビ	
21	コマツヨイグサ	花と実	54	ヨツバハコベ	花と実	13	ハチジョウシダ	
22	コモチマンネングサ	花	木本			14	ヒトツバ	
23	シチトウスミレ	花	1	アカメガシワ	蕾	15	ホシダ	
24	シロバナマンテマ	花と実	2	イタビカズラ	実	16	ホラシノブ	
25	スズメノカタビラ	実	3	イヌビワ	実	17	マメヅタ	
26	セイヨウタンポポ	花	4	エノキ	若い実	18	ミゾシダ	
27	チガヤ	花	5	オオシマザクラ	若い実	19	ヤマイタチシダ	新葉
28	チチコグサ	花と実	6	オオバヤシャブシ	実	20	ワラビ	
29	ツメクサ	花	7	ガクアジサイ	咲き始め	今回はシダ植物 20 種を含む 92 種の植物を観察しました。昆虫ではシャクガの幼虫が目立ち始めました。		
30	ツルソバ	花と実	8	カジイチゴ	花と実			
31	テリミノイヌホオズキ	花と実	9	クワの仲間	若い実			
32	トウバナ	花と実	10	タブノキ	若い実			

八丈島では、内地と少し様変わりした種や独自に進化した種など、聞き慣れない種があるのが特徴です。今回は、「イズシラホシカミキリ」にスポットを当ててみたいと思います。



イズシラホシカミキリ *Glenea relictata izuinsulana*

全国に分布するシラホシカミキリの亜種。

伊豆諸島（三宅島・御蔵島・八丈島）に分布しています。

基亜種のシラホシカミキリとは、前胸から頭にかけて白っぽいことで区別できます。

八丈島では主にラセイタタマアジサイやシチトウエビヅルの葉の上で見ることができます。

写真の個体は羽化してから相当時間が経っているらしく、斑紋が薄くなっています。

(T.K.)

2020 八丈ビジターセンター 6 プログラムカレンダー

日付の下に書かれている時刻は、八丈島(神湊)の潮の満ち引きの時刻です。
また日付の横は月の満ち欠けです。

日	月	火	水	木	金	土
この色の日は ガイドウォークや 特別行事があります	1	2	3	4	芒種 5	6 ○ ガイドウォーク
7 ガイドウォーク	8	9	10	11	12	13 ◐ ガイドウォーク
14 ガイドウォーク 植物公園季節調査会	15	16	17	18	19	20 ガイドウォーク
●夏至 21 ガイドウォーク	22	23	24	25	26	27 ガイドウォーク 八丈学講座 「海浜植物観察会」
◐ 28 ガイドウォーク	29	30				

イベントプログラム

植物公園季節調査会	植物公園内で動植物の調査をしながら季節の変化を一緒に感じましょう！ 6/14 (13:30～15:00) 中学生以上 ビジターセンター集合・解散 無料 定員:15名	当面の間は中止
八丈学講座 「海浜植物観察会」	毎月行っている八丈学講座。今月は海辺の植物を観察します。 6/27 (13:30～15:00) 中学生以上 底土海水浴場駐車場 集合・解散 参加費:50円 定員:15名	中止の可能性あり
植物公園ガイドウォーク	解説員が植物公園内をご案内します。 毎週 土日及び祝日 (10:30～約1時間) だれでも参加できます。 ビジターセンター集合・解散 無料 定員:15名	中止の可能性あり

ビデオプログラム

10:00～	八丈・海・生きものたち
11:00～	おじゃりやれ 八丈島
14:00～	おじゃりやれ 八丈島
15:00～	おじゃりやれ 八丈島
16:00～	八丈・海・生きものたち
上記以外での上映は予約にて可能です	

東京都八丈ビジターセンター 2020.6.1 第229号

開館時間 9:00～16:45 年中無休(入館無料)
〒100-1401
東京都八丈島八丈町大賀郷2843
電話:04996-2-4811 Fax:04996-2-4888
E-mail:info@hachijo-vc.com
http://www.hachijo-vc.com

編集後記

当たり前のように送っていた普通の生活。これからはコロナのある生活を考えなければなりません。
ビジターセンターでも感染拡大防止対策を講じたらうえでの再開となっております。ご理解とご協力をお願いいたします。(H.T)